

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	平成28年5月31日 ～ 平成29年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ》</p> <p>【守口市立さつき学園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導（日本語指導）に関すること ・生徒指導に関すること
調査研究のねらい	<p>主に下記の3点について取り組み、今後の夜間学級のあり方についての研究を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さつき学園夜間学級は主に日本国籍、中国・台湾国籍、韓国・朝鮮国籍の方が在籍している。日本国籍、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化がすすみ病気等に悩む生徒が多い。また、中国から引揚帰国した生徒や新渡日の生徒が全体の約半数を占めており、最近では、ネパール国籍、パキスタン国籍の生徒が入学してきている。これらの生徒は、日本の義務教育の学習内容を理解する以前に「日本語が話せない問題」を抱えており、これらの生徒の抱えている諸問題解決のための効果的な学習指導や生徒指導のあり方について研究していく。 2. 平成27年12月4日に全国夜間中学校研究大会第61回京都大会が開催された。その際、第三中学校夜間学級で公開授業が行われ、遠く他府県の方々にも来ていただいたが、公立中学校夜間学級が存在が世間一般に認知されているとは言いがたい。そこで交流活動等を通して今後の夜間学級のあり方を研究していく。 3. さつき学園夜間学級は、「施設一体型義務教育学校校」として開校しており、義務教育9年間を見通し、学校・家庭・地域が力を合わせ、一体となってすすめていく教育活動を踏まえた交流活動の位置づけについても研究を進める。
調査研究の成果	<p>本年度の取組と成果</p> <p>上記のねらいを達成するため、以下の取組を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「日本語が話せない問題」等、諸問題解決のための効果的な学習指導や生徒指導のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・中国引揚帰国・新渡日生徒に対する取組 <p>本校は5学級編成であるが、中国引揚帰国・新渡日生徒の在籍する学級では、通常学級の授業に言葉の問題でついていけない生徒が大部分であるため、本年度も帰国間もない生徒（基</p>

礎A1)、初級(基礎A2)、中級(基礎B)、上級(基礎C)の4コースに分けて分割指導を行った。また、中国引揚帰国・新渡日生徒指導のために翻訳・通訳(行事を行う際、必要に応じて中国語が堪能な講師やボランティアを活用)を行った。さらに、毎日の授業前に中国引揚帰国・新渡日生徒を一室に集め、1日の予定や学校生活のルール・マナー等を確認していった。

- ・ ネパール国籍、パキスタン国籍の生徒に対する取組
今年度、受験を考えているネパール国籍の生徒が2名いたので計画的に課外の時間に数学、英語学習の補充を行った。
また、職員室に用事を言いに来る係などをさせ、日本語を使う機会を意図的に増やして学習の一助とした。

(成果)

- ・ 中国引揚帰国生徒のより細やかな指導のため、少人数習熟度別分割授業及び中国語の堪能な講師やボランティアによる翻訳・通訳を継続した結果、中国語が母語である生徒の諸行事への参加意欲が高まるとともに、学校生活のルールやマナー等を習得する期間も短縮されている。また、学習上のつまづきはもとより、健康面や生活面での相談にも対応できた。
- ・ 年度当初よりきめ細かな学習体制で取り組んだ結果、ネパール国籍の生徒2名が来年度高校進学することとなった。

2. 交流活動等を通じた今後の夜間学級のあり方

- ・ 本校の存在をより多くの人に知らせていくと同時に、自己解放や相互理解を深める等、より効果的な学びを探るため、本年度も、小・中・高校生・社会人との交流活動を多く実施した。
- ・ 文集「まなび」の作成
1年間の学習のまとめの一環として、文集「まなび」を作成した。
- ・ 「みんなで語り合う会」の実施。
講師を活用し、生徒が読み上げた作文原稿を中国語に翻訳した。その後の意見交流においても中国語の通訳を行い、生徒の相互理解を深めた。

(成果)

- ・ 交流会活動を通して、訪問者に夜間学級の存在と現状を知ってもらおうと同時に、夜間学級生自身も自分の生い立ちを振り

振り返り発表するなど、コミュニケーション力や言語力の向上について大きな効果をあげている。これは、文集「まなび」からも読み取れる。また、交流会活動は、高齢生徒の学習意欲の向上にも有効であると考えられるので、今後も交流会活動について継続的な取組を行うと共により効果的な交流会のあり方を検証していきたい。

3. さつき学園（義務教育学校）内での9年間を見通した交流活動の位置づけ

- ・ 機会あるごとに行事等に夜間学級生徒が参加するように心がけた。
- ・ 文化発表会に参加し、戦争体験に基づく発表を行った。
- ・ 三学期に8年生との交流を持ち、9学年に進級する前に学習意欲を刺激しようと教師間で計画・実施した。

（成果）

- ・ 夏休みに教職員の合同研修会を持った。
- ・ 8年生との交流のあとの感想文では、「学ぶことの大切さを感じた。」「あなたは一日何時間勉強していますか？という質問に答えられなかった自分が恥ずかしかった。」等、さつき学園内で夜間学級生徒の学習意欲に共感する記述が多くみられた。他学年とも交流できる機会を意図的に増やしていきたい。